

立命館大学

# 国際平和ミュージアムだより

KYOTO MUSEUM FOR WORLD PEACE, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Vol.30-2 (通巻88号) 2022.10.31発行

## 2023年9月国際平和ミュージアムリニューアルオープン！

国際平和ミュージアムは、「戦争の記憶を共有するミュージアム」、「平和創造の場となるミュージアム」、「平和創造を支える調査研究活動の拠点となるミュージアム」を基本コンセプトに展示リニューアルを進めています。過去の歴史と現在の世界を来館者の皆さんに見つめていただき、平和創造に向けた一歩を踏み出すきっかけを作りたいと考えています。



立命館大学

アカデミア立命21  
リフレッシュ事業

### 1F エントランスホール



ミュージアムエリア一新！

参加型展示！

### B1F 立命館大学国際平和ミュージアム

学術・文化・国際化への発信基地が  
装い新たにリニューアルオープン！

Newly reopened as a transmitter for academics, culture and internationalization!

# 2023.09 OPEN

### 2F ピースコモンズ

平和学習をサポート！



## ボランティアガイドコラム

### リニューアルに期待！

国際平和ミュージアムがリニューアルされるという話を私が聞いたのは約6年前です。私たちガイドもリニューアルにあたって意見や要望等を集約し、ミュージアムに伝えてきました。それから、「基本構想」「基本計画」の提示を経て、今回の「基本設計」「実施設計」の説明会の運びとなりました。一連の説明で私が特に感じたのは、ミュージアムが「平和創造の主体者となる世界市民をはぐくむ学びの場を形成することにつとめる」(ビジョン)とし、その具現化として、2階の展示が地階に移され、来館者が平和についての現代的な課題を学びやすくなることと、新たに、市民が集い、学び合い、学びの成果を発信できるとされる「ピースコモンズ」が設置されることです。また、「平和を自分の課題と結びつけ、自分事として捉えられるリニューアル」(ミッション)とし、見学コースがプロローグから始まり、4つに区分された展示(年表、テーマ、トピックス、コラム、問いかけ)を往還しながら、エピローグへ至るといふ、来館者が主体的に学習できるように設定されているということです。

さて、そこで私たちガイドが果たす役割とは何かですが、一つは、展示の内容で難しいところを分かりやすく説明することです。特に小中学校の学習では必要になると思います。二つ目は、来館者の主体性を尊重し、主体的な学習や行動ができるよう支援をしていくことだと思います。一例として、「問いを投げかけることを通じて、主体的に考え、しあわせな未来を生みだす人をはぐくむ」(ミッション)から、「問い

かけ」が重要だと思っています。三つ目として、来館者との交流です。特に、ピースコモンズは、来館者が事前・事後の学習での利用や見学後のグループでの振り返りをすることもできます。また、来館者とガイドとの交流や学び合いもできると思います。さらには、学びの成果を発信することを支援することもできるでしょう。感染拡大もあって、約3年半というブランクがありますが、私たちガイドのリニューアル・オープンに対する期待は大きいものがあります。リニューアルの意義をしっかりと理解し、準備していきたいと思っています。

(ボランティアガイド：山中 偉史)



## 学生スタッフ 活動記録

### リニューアルワークショップ編



リニューアル展示ワークショップでは、まず5回に分けて展示の勉強会が行われ、その後は「問いかけ展示」で質問する内容についての検討会が行われました。

勉強会では、展示に対する全般的な説明をはじめ、忘れてはならない歴史的な事件を振り返りました。アヘン戦争、満州事変、第一次・第二次世界大戦および、冷戦後から現在までの事件がその例です。学芸員の方から展示の説明をいただいた後は、他の学生スタッフの皆さんと疑問点や展示内容についての意見交換を行いました。実は、私が一番心配していたのは、留学生である私と、日本の方が見る歴史問題の視点に違いがあるかもしれないことでした。しかし、それは無駄な心配でした。むしろ留学生である私がどのように考えるのか意見を聞いてくださって、おかげで私も素直に話すことができました。

検討会では、内容復習と問いかけ展示について話し合いました。問いかけ展示について話したセッションが一番印象

に残っています。この展示の「問い」を学生スタッフが直接考える機会だったからです。問いかけ展示は、展示を見学して情報収集した後に、展示を振り返る最高の機会です。そのため、来館者の印象に残るいい質問、他のミュージアムと差別化した問いを作りたかったのです。私は来館者を、小学生や子供たちと仮定して、(1) 平和を定義する (2) 自分たちが平和のためにできること (3) これからのグローバルゼーションについて振り返る質問を作りたいと考えました。しかし、他の学生スタッフの方は主に現代社会問題を提案しました。この過程で、学部と関心分野が違う学生同士で話し合う時間がとても楽しかったです。

ワークショップへの参加は、大学生活で印象に残る活動になりました。長期的なワークショップ参加と、こんなに規模が大きいプロジェクトへの参加が初めてだったからです。参加する前はたくさん心配しましたが、新しい視点から歴史を考える、意見を話すいい機会になりました。これは国際関係学を勉強する自分にとって、とても有益な時間だったと思います。

緊張感と期待感が共存したままに始まりましたが、今では新しくリニューアルするミュージアムに対する期待感だけあります。私が卒業する頃は、リニューアルはまだ終わっていませんが、完成したら必ず訪問してこのワークショップの実りを見たいです。

(学生スタッフ：チョン スミン)

平和教育研究センター主催

## 「国際法の立場から見るウクライナをめぐる問題についてのWeb 討論会」 実施報告

2022年3月30日 16:00～17:08

形式：オンライン講演会

ファシリテーター：

吾郷 眞一氏 (立命館大学国際平和ミュージアム館長・  
立命館大学衣笠総合研究機構教授/国際労働法)

討論者：越智 萌氏 (立命館大学国際関係学部准教授/国際刑事法)

徳川 信治氏 (立命館大学法学部教授/国際人権法)

西村 智朗氏 (立命館大学国際関係学部教授/国際環境法)

薬師寺 公夫氏 (立命館大学名誉教授/国際人権法)

湯山 智之氏 (立命館大学法学部教授/国家責任法)

参加者：101名

2月24日のロシアによるウクライナ侵攻以降、国際平和ミュージアムは3月22日にミュージアム声明「ロシアによるウクライナ侵略を糾弾し、ウクライナ市民との連帯を表明します」を発出するとともに、立命館大学の6名の国際法学者によるWEB討論会を開催しました。

薬師寺公夫氏からは、資料「ロシアによるウクライナ侵略と国連安保理及び国連総会」と「ジェノサイド条約の下での集団殺害の主張(ロシア対ウクライナ) —2022年3月16日国際司法裁判所仮保全措置命令—」にもとづき、国連安保理と国連総会が行ってきた取り組みと国際司法裁判所(ICJ)が行った仮保全措置命令について報告いただきました。

越智萌氏からは、氏のホームページ「ロシア・ウクライナ紛争下での中核犯罪」にもとづき、国際刑事法の視点から、「侵略」の定義、国際刑事裁判所(ICC)の捜査とロシア上層部への訴追、国家賠償の可能性について報告いただきました。

徳川信治氏からは、資料「ヨーロッパ評議会」にもとづき、ヨーロッパ評議会閣僚委員会がロシアを除名するまでの経緯とその法的、政治的意味、ロシア除名後の欧州人権裁判所の態度について報告いただきました。

西村智朗氏からは、国際環境法の観点から、核兵器使用や核施設への攻撃は、国際司法裁判所(ICJ)の勧告的意見から明らかに違法であり、ジュネーブ条約議定書の規定からも違法であると報告いただきました。

湯山智之氏からは、国家責任法の観点から、第三国による制裁措置が認められるかについては関係するすべての国が国際司法裁判所(ICJ)に提訴ができること、対抗措置がとれるかどうかは法的には結論が出ていない問題であると報告いただきました。

最後に吾郷館長から、国際法による事態収拾については一縷の望みがあることが述べられ、今回の討論会を終えました。



平和教育研究センター主催

## 「国際政治の視点から見るウクライナをめぐる問題についてのWeb 討論会」 実施報告

日時：2022年5月20日 16:30～18:05

形式：オンライン講演会

特別講師：

下斗米 伸夫氏 (神奈川大学特別招聘教授・法政大学名誉教授)

浜 由樹子氏 (静岡県立大学国際関係学研究所・国際関係学部准教授)

コメンテーター：

宮脇 昇氏 (立命館大学政策科学部教授)

ライカイ・ジョンボル氏 (立命館大学国際関係学部教授)

ファシリテーター：

吾郷 眞一氏 (立命館大学国際平和ミュージアム館長・  
立命館大学衣笠総合研究機構教授)

参加者：55名

事務局：亀田 直彦、加藤 晶洋

5月20日(金)、当センター主催による、Webセミナーを開催しました。講師として学外から、下斗米伸夫先生(神奈川大学特別招聘教授)、浜由樹子先生(静岡県立大学国際関係学研究所・国際関係学部准教授)、また、本学からは、宮脇昇先生(政策科学部教授)、ライカイ・ジョンボル先生(国際関係学部教授)をお招きし、当ミュージアム館長兼センター長の吾郷眞一教授の司会の下で実施しました。学生・教職員、また市民の方等、計55名が参加しました。

2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻が始まって以来、刻一刻と変遷する苛烈な状況の背景について、各講師から様々な視点が提供されました。ソ連崩壊後の旧ソ連地域の政治的・宗教的背景、ウクライナ国家成立までの複雑な歴史経緯、2021年のバイデン政権成立後の米ロの主要な対立点等についての解説を頂きました。また、今次の侵攻の背景を、短い時間軸では見えない、ウクライナとロシア両国の歴史認識の違いが政治プロセスの中で顕在化し、紛争へと変遷して行った点等も踏まえ、日本では両国の論理についても客観的でバランスの取れた報道がなされているかどうかを丁寧に見守る大切さを指摘されました。

セミナー終了後に実施した参加者へのアンケートで、「両国の歴史認識問題の解説が分かり易かった」、「一方向ではなく、双方向からの論理と情勢を比較することの重要性を認識した」等、大変有為なセミナーであったとの声が寄せられました。

平和教育研究センターでは、現地で今なお続く戦禍の一日も早い収束を願いつつ、引き続き事態の推移を見守り、情勢認識の深化に努めて参ります。



# 遊心雑記

## 「花だより」に導かれて

安齋 育郎 (国際平和ミュージアム名誉館長)

国語辞典によると、庭とは、「屋敷内で、ある広さをもって空けてある地面。草木を植えたり、泉水や築山を設けたりする」とある。わが家に当てはめれば「ある広さをもって空けてある地面」と言えばガレージしかない。でも、「ガレージ」は「車庫」であって「庭」ではない。わが家では、「ガレージ以外の家の外周の隙間」を庭と呼ぶことにしている。

狭い空間だが、なかなかどうして馬鹿にできない。どこからともなくやってきて自生している植物や地植えや鉢植えの植物が100種類以上もあり、さまざまな自己表現で季節を彩り、実を成し、目や心を養ってくれる。何やら血なまぐさい時勢から暫時「心」を解き放つ貴重な空間でもある。

多分もう1000回を超えただろうが、毎日数十人の知り合いに「花だより」を送っている。旅に出る時などは休刊せざるを得ないが、大雨でもない限り、毎日50枚程の写真で庭の植物たちのユニークな自己表現を紹介し、ちょっとした感懐を付してメールする。癒しの一助になっていると伝えてくる読者もいて、自分も楽しみながら読者にも楽しんでもらうのは一石二鳥だ。今年は家の西側の人一人分ちよい程の隙間にブラックベリーが豊作で、ヒヨドリの襲来を恐れている。

私はこの「花だより」の取り組みを勝手に「一人平和運動」と名づけている。四季を通じての観察によって、花々のいのちの多様性とその輝き、はかなさ、したたかさ、世代をつなぐための巧妙なしくみなどに感じ入りながら、いのちのかけ

がえのなさを学ばせてもらっている。平和の原点は「命をいつくしむ心」だから、これはまさに私にとっての「一人平和運動」だ—そう合点している。毎日やっているうちに、何か一人で味わっているのがもったいなくなって、身近な知人に勝手に花だよりを送っているという次第だ。これはまた「根気試し」の取り組みでもあり、読者の一人は「健康のパロメータ」とも言ってくれた。そうかもしれない。



豊作のブラックベリー

2022年9月1日より  
団体予約受付開始!



予約方法は?



当館ホームページ、FAX、電話にてご予約いただけます(電話は平日9:00~17:30)。詳しくは、当館ホームページをご覧ください。お問い合わせください。

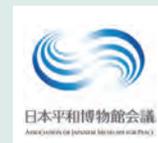


お申し込みはこちら

立命館大学国際平和ミュージアムだより



第30巻 第2号 (通巻88号) 2022年10月31日発行  
編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム  
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1  
TEL: 075-465-8151 / FAX: 075-465-7899  
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



今後、展示・イベントのご案内、ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付をご希望されない場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名・団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、国際平和ミュージアム(075-465-7899)へ送信ください。